



4月1日から赤平でも地域通貨が始まりました。単位は“ラビカ”です。地域通貨という4文字の漢字を見るとなんだか難しいものに思えますが、昔からお隣同士や、町内会などでやっていたこと “助け合い、支え合い” の心。この心を隣の町内にも、さらに町中でというように広げていくためのシステムです。

なにも特別な技術や資格が必要な訳ではなく、あなたのできることをできる時間で参加すればよいのです。

なんでもお金で買える時代に失ったもの、地域でしか使えない通貨“ラビカ”を通して取り戻して見ませんか？

<お問合せ先>

赤平地域通貨を考える会(代表：境野環樹)

TEL・FAX 32-3888

E-mail : rabika@mocha.ocn.ne.jp



ラビカ通帳とラビカ紙幣(500ラビカ)

～「炭坑遺産説明ボランティア養成講座」10名修了～ 炭坑遺産説明ボランティアガイド誕生 デビューは5月連休(5/3～5) お客様との関係を大事にする“コミュニティガイド”

炭坑遺産を説明するボランティアガイドを養成しようと開講した公民館講座(平成16年度下期講座、全7回)が終わり、第1期生として10名が修了しました。

修了者で作る赤平コミュニティガイドクラブ「TanTan」(代表 土屋満さん)も発足し、5月の連休から始まる立坑や自走榨工場の公開に際しては、さっそく活躍が期待されます。

この講座の講師となった山口政美さんが終始強調されたのは、一方的に説明するのではなく、見学のお客様に対する‘おもてなしの心’や双方向の関係を大切にするコミュニティガイドということ。知識だけを伝えるのではなく、自分の経験談や人柄も大切な要素であること、子供からお年寄りまでを対象とするので気配りも多様であることなど、毎回含蓄のあるお話で実り多い講座となりました。

なお、今年度中には「(仮称)炭坑資料館」(いずみ幼稚園跡)もオープンする予定ですから、行動範囲はますます広がりそうです。



よろしくお願ひします。新入職員です！

4月からNPO法人赤平市民活動支援センターに勤務させていただいております、川崎 哲(かわさき さとる)と申します。以前は、道南で過ごしておりましたので、わからないことだらけです(既に2回ほど道に迷いました)。仕事でも周りから教えていただきながら、がんばっております。

これからは市民のサポーターとして、全道に発信できるような、元気な赤平をつくることを目指して、微力ながら行っていきたくと思います。どうかよろしくお願ひします。また、みなさんも、「こんな顔」を見かけましたら、お気軽に声をかけていただければ嬉しいです。